日本図書館協会　図書館基礎講座in九州　地域限定講座２

令和５年９月11日
筑後市立図書館
館長　一ノ瀬　留美

「筑後市立図書館の取り組みについて」

１、筑後市立図書館のコンセプト　「生活（くらし）とともにある図書館」

①図書館の位置づけ

社会教育施設→社会共育施設（公教育）

税金の還元（いつでも・どこでも・だれでも）

②図書館学の５法則（ランガナタン　インド学者）

館種を問わず図書館に必要な法則

５番目

A library is a growing organization.

図書館は成長する有機体である。

成長しなければ、維持どころかサービス低下につながる。

筑後市の紹介

面　積　41.78ｋ㎡

（建設省国土地理院調査）

人　口　49,218人

世帯数　20,692世帯

（広報ちくご　2023年４月号より）

２、コロナ禍での図書館サービス

・滞在時間を短くするために、インターネット在架予約導入

・公共図書館は不要不急ではないと実感

・電子書籍　2021.1.11サービス開始　2023.7月末現在　1946タイトル

３、図書館の直近５年間の推移（別紙）

・きみどり赤丸→貸出冊数　・むらさき→蔵書数　・水色→子どもの本の貸出冊数

4、今年度の取り組み

①家族でチャレンジ！ガチャ本！

・ガチャ本を回して、カプセルの中の紙に書かれた本をかりる

・ビンゴカードにスタンプ（3個並んだらビンゴ→感想用紙渡す）

・感想用紙と引き換えにプレゼント（ボランティアさん手づくりなど）

②移動図書館としょま～る号導入（R5）第15弾新型コロナウィルス緊急対策交付金（独自事業）

企画書

目的　以前より、希望があった小規模保育園への貸出及び移動図書館車を活用したイベント参加。

主に公用車を予約して、毎週木曜日にアウトリーチサービス→専用車なのでいつでも

5、地域の課題解決きっかけづくり事業（図書館の特色ある取り組み）

庁内連携事業として

・図書館でストレッチ（**健康づくり課**）

・図書館で高血圧講座・糖尿病講座・図書館で気軽に体力チェック（**高齢者支援課**）

・図書館で認知症かふぇ（**地域包括支援センター**）

病気ではなく症状（認知症になっても安心・安全に暮らせる知識）

6、宅配サービスについて（ちくごいきいき宅配便に加盟）　H24～

・遠隔地サービスの観点から

・利用しやすい運用

・元気なったら、来館

7、「本 de 恋活」事業

20 代から 40 代の若い人たちの来館のきっかけづくり

参加特典　予算がないので、成婚時に図書館で前撮りや挙式

「本 de 恋活」参加者を中心に「ちっご読書会」の開催（閉館後の図書館　月に 1 回）

8、広報に力を入れる　市報・ホームページ・X（旧 Twitter）・メディア関係

①新聞掲載回数

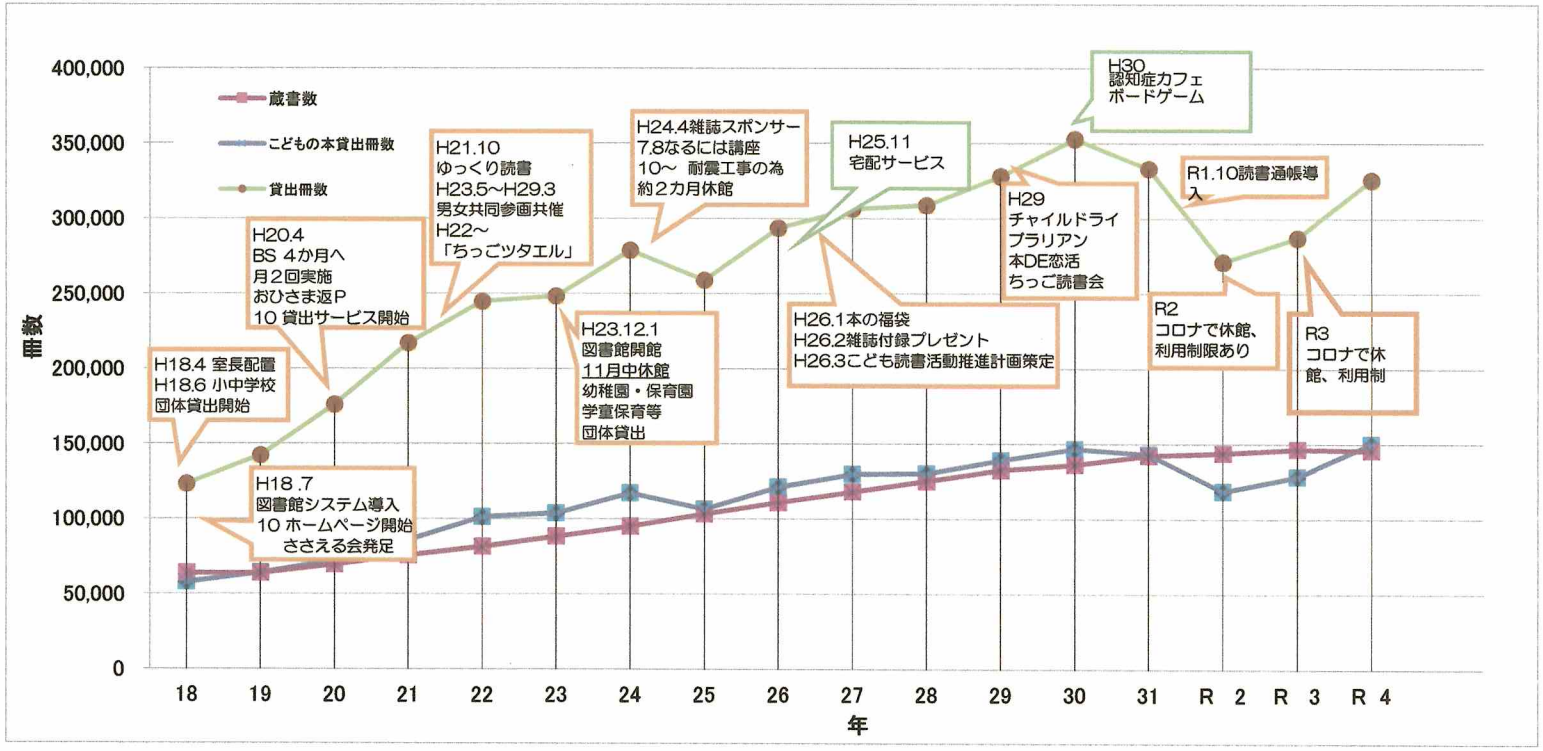
年度	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
回数	8	22	27	28	38	36	26	23

②潜在利用者へのアプローチで利用者増

筑後市立図書館蔵書冊数と貸出状況推移

図書室(館)利用統計

年度	こどもの本貸出冊数	蔵書数	貸出冊数
17	48,919	65,346	100,426
18	58,035	64,112	123,363
19	64,227	63,915	142,335
20	72,433	69,652	176,028
21	86,080	75,800	217,100
22	101,384	81,639	244,759
23	103,977	88,448	248,496
24	117,369	95,090	279,007
25	106,681	103,394	259,097
26	121,269	110,902	293,761
27	129,952	118,286	306,362
28	130,398	125,324	308,938
29	139,346	132,764	328,243
30	146,958	136,360	353,033
31	143,431	142,387	333,338
R 2	118,863	144,064	271,389
R 3	128,699	146,718	287,264
R 4	150,325	145,746	325,657



約10年間で貸出冊数が約3倍になった要因は
・公平なサービス実施・ボランティア養成 ・作家・絵本作家の記念講演会企画・日々のテーマ展示
・アウトリーチサービス(小中学校・学童保育所・幼稚園・保育所・子育て支援拠点施設など)
・ブックスタートでカード配付 ・ゆっくり読書タイム・絵本相談 ・宅配サービス ・雑誌スポンサー・広報活動など
・司書のスキルアップ・貸出冊数の変更(18.6)(21.6) ・図書館電算化(19.7 システム導入)
・本de恋活、ちっご読書会、認知症かふぇ、ボードゲーム、しあわせup講座などイベントの実施
・電子図書館サービス開始(R4.1~)
・移動図書館車「としょま~る号」導入(R5.3)

図書館活用 認知症カフェ

筑後 身近な施設 気軽に参加

筑後市立図書館で2か月に1回、認知症の人やその家族らが交流する認知症カフェが開かれている。図書館を活用した認知症カフェの取り組みは珍しく、市外から訪れる人もいるという。関係者は「図書館という身近な施設で、気軽に参加できるスタイルが喜ばれている。認知症への理解を広める情報発信拠点になっている」と手応えを感じている。

（柿本高志）

筑後市立図書館の認知症カフェでストレッチ運動をする参加者たち

読み聞かせやストレッチ

6月下旬、貸し出し用の書籍を収めた本棚が並ぶ読み聞かせスペース「おはなしの部屋」で開かれた「図書館で認知症かふぇ」。集まった高齢女性13人を前に、一ノ瀬留美館長が絵本の読み聞かせを行った。

続いて同館の職員が、歯周病の治療が認知症予防につながることなどを紹介する本の内容を要約して話すと、参加者からは「分かりやすかった。借りて帰りたい」との声が上がった。

また、市地域包括支援センターの職員が座ったままでできるストレッチ運動などを指導。「失敗しても、できるようになるまで繰り返すことが脳の働きを良くします」とのアドバイスを受け、参加者らは数字を数えながら「5」や「7」の倍数の時に手をたたき、体と脳の機能を鍛える運動に挑戦した。

最後に参加者が車座になり、「将来、子どもにできるだけ迷惑をかけないよう発症を遅らせる努力をしたい」「認知症になることは覚悟しており、今のうちからその時にどうしたらいいかを学びたい」などと意見を出し合った。

認知症に関する本を集めたコーナー

◇

図書館によると、認知症カフェは同館と地域包括支援センターが中心となり、2018年6月にスタート。偶数月の最終水曜日に開催しており、一ノ瀬館長は「認知症が気になっても、いきなり地域包括支援センターや専門外来を訪ねることをためらう人は多い。図書館なら気軽に参加できるのではと考えた」と話す。

事前予約は不要で、名前や住所を伝える必要もない。訪れた人は好きな名前を名札に書いて参加する。盛り上がっている様子を見て、途中から参加することもできる。評判が広まり、長崎や佐賀県から訪れる人もいるという。認知症に関する本を集めたコーナーも設けている。

公益社団法人・日本図書館協会(東京)によると、会議室などで認知症カフェを開いたり、関連書籍の特設コーナーを設けたりする図書館が増えているという。

川崎市立宮前図書館は15年、認知症に関する本を集めた「小さな本棚」を設置した。同館の舟田彰館長は「平日の図書館利用者は高齢者が中心で、認知症に関する情報を求めている人も少なくない。筑後市立図書館の取り組みは、各地の図書館の参考になるだろう」と話している。